



秋田県立横手支援学校 教育プラン

令和5年度～令和9年度

I 学校の現状と課題 ・ 学校を取り巻く将来の状況の予測

1 学校の現状と課題

(1) 現状

児童生徒数は近年90名程度を推移し、今後も横ばい状態が続くものと考えられる。知的障害を主としているが、各学部において肢体不自由、病弱児童生徒が在籍している。

教育課程の特徴として、中学部は県内唯一の「職業・家庭科」を導入している。高等部にも「職業科」と「家庭科」を導入し、特色のある教育課程の編成に努めている。今後さらに教員の専門性の向上と高い教科指導力が求められている。

(2) 課題

今後、小・中学校等の特別支援学級や通常の学級からの転学や、発達障害を背景とした行動障害、不登校傾向等の児童生徒が増加することが予想される。また、肢体不自由、病弱等の知的障害以外の児童生徒も、一定数の推移が予想される。このことから、より高度な専門性を有する教員の養成が必要とされ、特にICTを効果的に活用した授業実践に係る職員研修の充実が望まれる。

2 学校を取り巻く将来の状況の予測

本校では、センター的機能により、地域における全ての校種において特別支援教育を進めているが、対象児童生徒の増加もあり、小・中学校等から特別支援学校への転入学が増加してることが予想される。よって、老朽化による校舎改築を計画している本校としては、各障害種に対応した教育活動を行うことができる設備を要した校舎改築に向けて、基本構想素案を策定している。校舎改築後には、県南地区知的障害教育校の拠点校となる学校として大きな役割を担うことが予想される。

II 目指す方向性 ・ 学校像や児童生徒の姿

1 目指す方向性・学校像

- ・あいさつが響きあう 笑顔のあふれる学校
- ・多様な教育的ニーズに応じて 一人一人の力を伸ばす学校
- ・地域に信頼され 地域に貢献できる学校

2 目指す児童生徒の姿

- ・明るく 健康で 心豊かな明るい児童生徒
- ・仲良く 協調性に富み 社会性豊かな児童生徒
- ・元気よく 自ら意欲をもって働く児童生徒

Ⅲ 具体的な目標・取組・推進指標

1 特色ある教育活動の充実

- (1) 地域資源や地域の教育力を活用した学習活動による教育課程の改善
 (2) キャリア教育全体計画に基づく「風のつばさ はばたき 大作戦」の活用

〈推進指標〉卒業生の就職者の割合

年度	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
割合 (%)	17	22	25	28	31

※R4・16.6%

2 より高度で専門性の高い教育の推進

- (1) ICTを効果的に活用した授業実践の蓄積と職員研修の充実

〈推進指標〉ICTを活用して指導・支援できる教員の割合

年度	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年
割合 (%)	88	91	94	97	100

※R4・85.5%

- (2) 発達障害を含めた各障害種に応じた自立活動の充実

3 特別支援学校のセンター的機能の強化

- (1) 小・中学校等への障害理解授業と居住地校交流の拡大

〈推進指標〉居住地校交流を行った小学部児童及び中学部生徒の割合

年度	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	
割合 (%)	小	34	37	39	42	45
	中	19	22	25	28	31

※R4・小学部30.7%、中学部15.7%

- (2) ホームページ等を活用した本校教育活動の情報発信の促進

4 基本的な生活習慣の確立と生徒指導の徹底

- (1) 挨拶から始まる規則正しい生活習慣、日常生活の基礎的動作の習得と定着
 (2) 関係機関と連携した事案の未然防止に向けた生徒指導の強化

5 安全・安心な学校づくりと健康な生活の確立

- (1) 家庭や福祉施設等と連携した防災教育・安全教育の充実
 (2) 授業や部活動における体力づくりや健康な生活へ向けた実践の推進

6 充実した学習環境の整備に向けた校舎改築の実現

- (1) 特色ある教育活動の推進に向けた基本構想素案の策定
 ・小・中学部校舎と高等部校舎を統合した校舎
 ・各障害種に対応した教育活動が展開できる設備